



# つながいワーカー 養成講座

地域での孤立に気づき、つながい、見守る人材を育てる  
つながいワーカー養成講座です。

日時 5月13日(月曜日) 10:00~12:00

会場 みんなの居場所古民家玉手箱

対象 こころに寄り添える方ならどなたでも

料金 無料

申込 090-7521-5143 (小林)

つながいワーカー養成講座受講後には、修了証書が  
発行されます。

ご近所の見守り・支え合いが地域をまもります

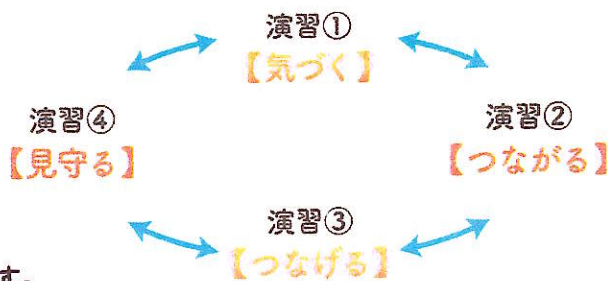


# ご近所の見守り・支え合いが地域を守ります



## 【研修の目的】

- 誰もが地域の中で自分らしい生活を最期まで送るためには、制度やサービスだけでは不十分です。ご近所の見守り・支え合いが地域を守ります。
- 地域には老若男女、さまざまな人が暮らしています。地域で気かけ合い、見守り合い、支え合うことが大切です。
- 排除や差別しない地域づくりが、安心・安全なまちづくりにつながります。無理せず、できることで支え合う地域を育みませんか。
- 人と交流しながら自分を役立てることは、健康寿命を延ばすことにもつながります。
- 孤立・孤独は深刻化することもあるので、専門職に適切につなげて相談することが必要です。
- 専門職につなげた後も、地域の中でゆるやかに見守りましょう。
- 本研修は、地域で孤立している人・孤独な人に気づき、つながり、つなげ、見守る人材を養成することを目的に、4つの演習を行います。受講後は、ぜひ地域の中で「つながりワーカー」としてご活躍いただき、ときにこのワークブックを開いて活動を振り返る機会としていただければ幸いです。



## 【講師・監修者のご紹介】

### 福島 喜代子

ルーテル学院大学 総合人間学部 教授

【専門】ソーシャルワーク、権利擁護、対人援助のトレーニング

【略歴】大阪大学(学士)、カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)大学院(社会福祉学修士)、

日本社会事業大学大学院修了(博士:社会福祉学)。社会福祉士。

大学卒業後、社会福祉の中央団体勤務後留学。帰国後、ルーテル学院大学勤務。

#### 【主な著書】

- ▶『事例で学ぶ認知症の人の家族支援 -認知行動療法を取り入れた支援プログラムの展開-』(編著、中央法規出版、2017年)
- ▶『市民後見人養成講座(第3巻)第3版』(共著、民事法研究会、2020年)
- ▶『自殺危機にある人への初期介入の実践』(編著、明石書店 2013年)
- ▶『ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』(共著、中央法規出版、2021年)
- ▶『ソーシャルワークの理論と方法II』(ミネルヴァ書房、2022年) ほか

#### 【主な論文】

- ◆「日常生活自立支援事業による意思決定支援とソーシャルワーク実践」『ソーシャルワーク研究』47(3)、212-222、2021年
- ◆「社会福祉における家族システムの理解とソーシャルワーカー等による支援のポイント」『月刊福祉』、6月号、20-27、2019年
- ◆「小地域福祉活動に参加する住民の集団としての効力感-住民の集団としてのエフィカシー尺度と、活動分野・活動頻度との関係性-」『ルーテル学院研究紀要』54、1-14、2021年
- ◆〈連載〉「【講座】ソーシャルワークで活用する認知行動療法」『ソーシャルワーク研究』44(1)、44(2)、44(3)、44(4)、2018年
- ◆「地域包括支援センターの機能、現状と展望-サービス利用に拒否的な高齢者への支援に焦点をあてて-」『老年精神医学雑誌』28(3)、254-261、2017年
- ◆「児童養護施設における子どもの成長-リジリエンスを分析枠組みとした事例研究-」『ソーシャルワーク研究』43(1)、48-59。篠塚利別香、福島喜代子、2017年。